

事務事業名	上水道料金収納事務	整理番号	31404-000
所管	水道業務課 料金スタッフ		

●事務事業の位置付け

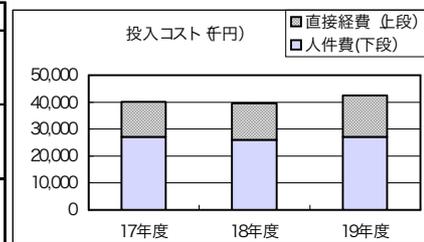
期間	昭和31年度～平成年度	根拠法令・要綱等	
基本計画における位置付け	基本政策 3-1 環境の保全と自然との共生 政策 3-1-4 水資源の確保	関連政策	

●事務事業の内容

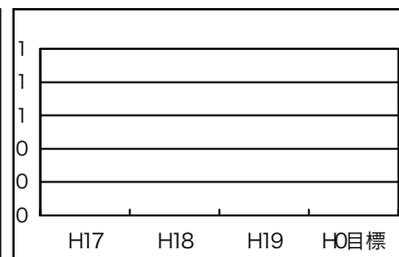
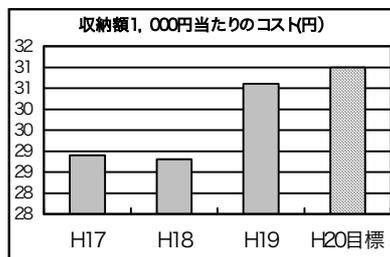
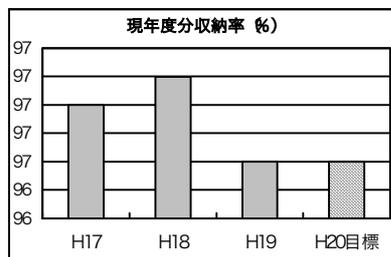
目的 (何のために)	生活用水の安定供給を図るため、使用水量に応じて使用者から水道料金を徴収し、自主財源としての事業収入を確保する。
対象 (誰・何を)	水道の使用者
手段 (どのようなやり方で)	水道料金納入通知書・督促状・催告書の発行、臨戸訪問徴収・納付指導の実施、給水停止の執行
成果 (どのような状態にしたいか)	納期内自主納付の徹底及び効率的事務処理による収納率の向上
事務事業の背景・住民の意向	公営企業としての経営を堅持するためには、原資となる料金収入の確保が必要である。なお、使用者の節水意識の向上に伴い年々1戸当たりの使用水量が減少し、料金収入もそれに伴い減少してきている。
見直し改善の経過	納入通知書による納付を口座振替への移行指導、納入機会拡充のためコンビニ収納を平成20年度から導入実施

●事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績
平成17年度	納付書発送192,144件 督促状発行12,588件 催告書10,158件 給水停止979件 収納実績1,390百万円余
平成18年度	納付書発送197,369件 督促状発行12,314件 催告書10,071件 給水停止1,184件 収納実績1,219百万円余
平成19年度	納付書発送199,343件 督促状発行12,556件 催告書11,187件 給水停止1,193件 収納実績1,388百万円余



●評価指標



●事務事業の評価

観点別・一次評価(担当部署の評価)		コメント	
観点別評価	必要性	★★★★★	公営企業会計は発生主義による会計方式による。従って、各年度の収納率に差が生じるものの翌年度内には毎年度99%台の収納率を確保している。なお、今後はアウトソーシングの活用を図る方向で検討する。
	有効性	★★★★	
	効率性	★★★	
一次評価	B	★★★★	今後の方向性 継続
二次評価(行政評価委員会の評価)		コメント	
二次評価	B	☆☆☆	事業効率の向上のため、委託化を図ること。 今後の方向性 手段改善

●改革プラン

平成20年度からの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンビニ収納を実施し、休日や仕事帰り、夜間など収納機会の拡充が図られる。</li> <li>・検針業務や閉・開栓などの窓口業務等についてアウトソーシングに向けて、先進地の施策や検討を行う。</li> </ul>
平成21年度以降の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検針業務や徴収業務及び閉・開栓などの窓口業務等について、アウトソーシング実施に向けて準備を行う。</li> </ul>
改革により予想される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収納機会が増えることで収納率が上がる。</li> <li>・アウトソーシングの実施により職員数が削減できるなどコスト削減が図られる。</li> </ul>